

小金高等学校の総合学科についてQ&A

Q1:いつから総合学科になったのですか？

A1: 県教育委員会の「県立学校改革推進プランの第二次実施プログラム」により、従来の普通科進学校であった小金高校はさらなる進学実績の向上を目指して、「進学を重視した総合学科」となりました。平成28年度入学生から募集を開始し、今年度の新入生の入学により、3学年すべてが総合学科生となっています。生徒ひとりひとりの多様な進学希望に対応するとともに、大学卒業後の就職までを見通した進路指導を実施しています。

Q2: 総合学科の特徴は何ですか？

A2: 普通科の科目をベースとして、これに理数科や英語科でしか設定が認められていない科目を多数置くことで、大学受験に大変有利な教育課程（カリキュラム）になっています。

将来の職業選択を見据えて、自分の適性をよく考える授業（「産業社会と人間」）が1年次に週2時間用意されています。その中で、将来の職業選択を踏まえてじっくりと考え、どの大学のどの学部が自分に最も適しているのかを先生方と一緒に考えていきます。

2年次から「**4つの系列**（コース：進路に応じた選択科目群）」に分かれて学びますが進路実現を目標とした選択科目である学校設定科目も多く用意しており、自分に合った時間割が作成できます。このように**数多くの選択科目**が選べます。

4つの系列とは、「人文国際」、「数理科学」、「医薬看護」、「芸術文化」の4つです。この系列に関連した選択科目を選んでいくことになります。

Q3: 数多くの選択科目とのことですが、普通科にない選択科目が多くあるのですか？

A3: 本校の総合学科は、「普通科」におかれている科目に加えて、「理数科」にしか置けない科目や「国際科(英語科)」、「芸術科」、「家庭科」にしか置けない科目が設置されています。例えば、「理数科」にしか置けない科目である「理数物理」、「理数化学」、「理数生物」、「理数地学」や「理数物理概論」、「理数科学概論」、「理数生物概論」、

「理数地学概論」などがあります。また、数学では「数学研究①②」があります。一方、英語科では、「英語表現研究（2年次）」が設定されています。

つまり、「普通科」プラス「理数科」プラス「英語科」の科目が設定されており、普通科などより**多くの選択科目がある**ことで、自分の選んだ学部への進学に非常に有利であるという特徴があります。つまり、入試科目で使う科目を多くとることができるということです。

Q4：これ以外で、特徴ある科目はありますか？

A4：国語では、「古典講読」、「小論文研究」など、地歴公民では「世界史探究」、「日本史探究」、「地理探究」など、理科では「物理探究」、「化学探究」、「生物探究」、「地学探究」などがあります。普通科ではあまり設定されていない発展的で深い学びができる科目を多く設置しています。

※詳しくは教育課程表をご覧ください。※

Q5：「4つの系列」とは、どのようなものですか？

A5：まず、「系列」についてですが、普通科の高校の「コース」に当たるもので、「科目選択群」のことです。例えば、「文系コース」や「理数コース」とほぼ同じものです。数多くの選択科目がありますので、ばらばらに選択するのではなく、自分の進路に合致した系統だった科目選択ができるように**系列**を設定しています。

本校では、「人文国際系列(文系コース)」「数理科学系列(理系コース)」「医薬看護系列(医学部、薬学部、看護学部を目指す生徒のコース)」「芸術文化系列(芸術関係等を目指すコース)」の4つの系列を設定しています。

自分の進路や受験する大学の受験科目にあわせて、自分で系列を選ぶことができます。

Q6：特徴ある必修科目はなんですか？

A6：1年次に「産業社会と人間」という授業が週2時間あります。あまり聞きなれない科目ですが、本校では、この科目を「将来の職業選択を見据えて、自分の適性をよく考える授業」と位置付けています。適性検査や有名企業の社会人による講演会によって職業への適性を考えます。また、大学生によるグループワークで、大学生活

や大学での授業、受験勉強について1年次のうちに学んでいきます。そして、将来の職業選択までを見通した大学・学部選択を考える中で、2、3年次の「系列」選択につなげていきます。

また、最近求められている学力とされる「**問題発見解決能力**」を育てるため、「**課題研究**」を設定しています。これは、2、3年次に各週1時間設定しているもので、簡単に言いますと大学における「ゼミ」の高校版であるといえます。自分で深く調べて研究したい「研究テーマ」を自分で設定し、少人数のゼミ形式で議論し、討論します。最終的には、自分の調べた研究テーマをポスターセッション形式で発表します。これにより、「**プレゼンテーション能力**」の向上も目指しています。

Q7：授業のやり方に特徴はありますか？

A7：本校は昨年度まで、国及び県から「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」の指定を受けていました。新学習指導要領を先取りして、いわゆる「**アクティブ・ラーニング**」の授業の研究指定校となっています。このため、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を多く行っております。アクティブ・ラーニングの授業では、教師から生徒への一方通行の授業のみではなく、生徒同士が教えあう、学びあうことによって非常に理解度が上がったり、定着度が増したりすると言われております。昨年度完成した新しい校舎である「**総合学科棟**」では、一クラスの人数を半分（20人）程度にし、少人数でのアクティブ・ラーニングの授業を実施しています。

Q8：ICTを活用した授業はあるのですか？

A8：

県からICT推進校の指定を受けており、タブレットを総合学科棟用に40台、普通教室用に40台の合計80台を授業で活用しています。生徒のアンケートではタブレットを用いたICT教育はとてもわかりやすくアクティブ・ラーニング的な授業であると好評です。

Q9：授業時間は1日何時間ですか？

A9：本校では、一週間毎日45分の7時間授業を実施しています。また、前期・後期の

二期制を実施しており、授業時間の確保に努めています。

Q10：この春（令和元年度末）の進路実績は上がったのですか？

A10：大変向上しました。国公立大学の合格者は57名。東北大学に現役で2名合格し、このほか筑波大学9名、千葉大学14名などとなっています。

一方、私立大学の合格者は、いわゆる私立難関10大学（早慶上智、理科大、GMARCH）で、**昨年度比40%以上アップの316名**でした。近年、文部科学省の指導で、都内の私立大学の定員が減らされている中で、大変な快挙であると考えています。また、**医学部にも合格**しているとともに、**薬学部、看護学部**等には数多く合格しています。

※ 詳しくは、進路実績のページをご覧ください。※

Q11：どうして、進学実績が上がったのですか？

A11：先生方のレベルの高い授業を行うとともに、毎日45分の7時間授業を実施することや、長期休業中の補習や定期考査一週間前の補習などを丁寧に積み重ねてきた成果であると考えられます。また、担任や進路指導部の先生が個々人の進路の相談や悩みについてじっくりと時間を取って相談してくれる体制が整っていることも要因の一つであると考えています。

Q12：部活動の成績はどうですか？

A12：昨年度、全国大会、関東大会に出場した部活動は、陸上部、吹奏楽、放送局、写真部です。野球部も夏の県大会において、ここ3年間で2回ほど4回戦まで進出しています。

それ以外の部活動も非常に盛んで、県大会等で活躍しています。部活動の加入率はほぼ100%です。

Q13：小金高校の行事はどのように運営されるのですか？

A13：球技祭、合唱祭、鎬祭文化の部、鎬祭体育の部の「四大大行事」があります。運営はすべて生徒の立候補で本部（執行部）を編成し、本部が企画・運営します。生徒中心で行われるので、とても楽しい行事ばかりです。文化祭は一般公開いたしますので、是非おいでください。